

共産党
某書

脱出
入露

其の二月五日入露ありしを得て、理にモズ
とる片山啓の許にあり
大正十年二月廿九日下旬密地密地社の中共産党
の事や件次第暴露せんとす、や彼等一味は
いふ、過酷なる鼠先に回ける、や計り難
曲明は曰、四月の逆事件のことは思ひて、
るること甚しく、若し一編打盡の言に置け、曰
本に共産運動衰微せしことを憂ひ、早小脱出
の一理由あり、又何小露西亜に行へるの
は此の機命に於りて、必ずしも得難くあり、

1020
今H特

ち

依仰
脱出
移居
抱懐

小脱出の二理由あり、又上海に於いて、北京に
於りて曰、支、鮮の共産主義と相會して大正
十年平田吾作、江藤榮造、高津正造等の去
て、極東共産党を再組織すべく各處に
十人の山本懸藏、高津正造、法野宗、江藤榮
造等は、妻孥を凝らして東京を脱去し上海に向
いたり、林野山、塚本、長谷川、長谷川等の脱出と確的
に起り得た、は、月、日、ありしとす、
右の事情は、程度高正造の帰国と共に、
左の事、此書として、脱出後、今の書に